千葉県日独協会通信　No.17　－　2000年（平成12年）12月20日

Die Eiche

ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 第二ワールド ナーシング ホーム内
TEL 047-461-9111　FAX 047-461-7010

ドイツ軍人追悼慰霊祭

追悼の辞を述べるヴァルナー大佐
右はモッテ准尉、左は国枝副会長

後列左より花井常務理事、モッテ准尉
加藤会長、ヴァルナー大佐、吉野二等海佐

当協会恒例行事となっている、第一次大戦時習志野俘虜収容所で病死した、30柱のドイツ軍人慰霊祭が、久々に小春日和となった11月26日（日）午前11時より船橋市習志野霊園に於いて行われた。ドイツ連邦共和国大使館国防武官のライムント・ヴァルナー大佐、同武官補佐官フランク・モッテ准尉及び、当協会の加藤吉昭会長、吉野正幸自衛隊二等海佐（千葉地連）以下23名が参加、平田常任理事の司会で慰霊祭は進められた。

先ず国枝副会長が開会の辞を述べ、全員で黙祷。そしてドイツ国歌がテープで流され、ヴァルナー海軍大佐による追悼の辞と当協会への謝辞、加藤会長の慰霊の辞、（財）日独協会花井常務理事による30柱の紹介と続き、軍人葬送歌「よき仲間」の合唱をして、ヴァルナー大佐による大きなドイツ政府の花環が墓前に捧げられ、参会者の献花が行われた。最後に全員の礼拝で終了。更に、今次大戦後ドイツ軍人の墓守をしておられた故石崎申之氏（当協会、石崎理事の父君）の墓に参拝。

直会は近くのレストラン「カーサ」にて昼食を食べながら、自己紹介も交え和やかに行われ2時に散会した。

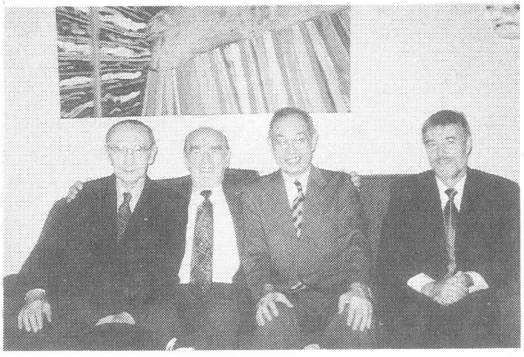
「ドイツにおける日本年」と習志野の絆

理事　友野信善

本年の第二十三回習志野第九演奏会は、十二月三十一日午後五時よりJR津田沼南口前の習志野文化ホールで開催されます。市内四団体メンバーにより成るフェスティバルオーケストラ、五百名の合唱団、更に習志野出身の指揮者田久保裕一、全員千葉県出身のソリストと言う具合に全く手造り地元産の演奏会ながら、ミレニアムを飾る演奏会として大きな関心を持たれています。昨年の演奏会にはドイツ大使御夫妻を迎え、今年はずっと好意を持って見守って頂いた同大使館のケーラー文化部長を、暮れの三十一日にも拘らずお迎え出来ると言うこの上ない幸せに、我々はドイツと習志野の間の絆を感じとっています。

この背景に八十年前に習志野の地にあった第一次大戦時のドイツ人俘虜収容所の歴史があります。この特別資料展が本年一月開催され、オープニングにはドイツ大使ケストナー博士、ケーラー文化部長他、ドイツ側関係者の皆様、日本に残留された捕虜の御子孫、当時の所長西郷寅太郎大佐直系の孫西郷吉太郎氏、他多くの関係者の御列席を頂きました。期間中の来会者は五千人に達し、千葉県日独協会の協賛も頂きました。

沢山の資料を提供して頂いた一人にルードイヒ・ザイツ氏がいます。彼は第二次大戦時UボートU510の乗組員として来日、三ヶ月滞在の後にバタビア（ジャカルタ）経由で無事帰国した体験の持ち主。彼との文通の折、グラフィックアクション五十四号に掲載の、Uボートに搭乗された長井貞義氏の手記を彼に送った所、ザイツ氏は記録・記憶が失われていた長井氏の搭乗艦がU532であったと言う非常に高度な謎解きに成功しました。長井氏は、ドイツにおける日本年のフィナーレの一環としてデュッセルドルフで行われた「長井長義の生涯と業績」展にメインゲストとして参加。その折にニュールンベルグにてこの御両人の邂逅が果たされ、私もこれに立ち会うと言う希有な光栄に浴しました。ニュールンベルグ、デュッセルドルフ、東京、習志野の間に絆が結ばれた結ばれた瞬間でした。



右よりザイツ氏甥、友野信善、ルードウィヒ・ザイツ氏、長井貞義氏
於ニュールンベルグ ル・メリディエン グランドホテル

講演会とドイツワイン試飲会

左より加藤会長、和田氏、古倉理事

当協会秋の行事の一つである講演会とドイツワインの試飲会は、秋晴れの10月21日（土）1時30分より船橋市海神に会員及びその知人26名を集めて行われた。当初の計画では、理事の柳橋雅彦千葉県精神保健福祉センター次長に「鬱病とその対策」という講演をお願いしていたが、先生が体調を崩された為、金谷専務理事に「砂糖と健康」と題して話をしてもらった。砂糖は、紀元前から大変貴重な疲労回復薬として存在していた事、原料は砂糖キビと砂糖大根とがあり、前者は亜熱帯・熱帯で、一方後者は比較的寒い地域で収穫されるが、これによる砂糖抽出法は、1747年、プロシア（現東ドイツ）のマルグラフにより発明されたもので未だ250年の歴史しかない事などを知る。

又、砂糖は肥満や糖尿病の原因といわれるが、これらはWHO（世界保健機構）により否定されており、むしろ空腹時、食前に砂糖水を飲む事である程度満腹感が得られ食欲抑制効果があるといった話や、納豆に砂糖を少々加えてよく混ぜる事でナットウキナーゼを安定させ血栓を予防する効果もあるとの説も紹介された。更に当協会行事で度々配布される甘味料「オリゴのおかげ」について、オリゴ糖は糖類の一種で、大腸内のビフィズス菌を増やし便性を改善して大腸ガンを予防したり、カルシウムの吸収を促進して骨を丈夫にする効果がある事などの説明があった。

2時半からは、昨年に続き「入船屋」の和田浩行氏によるドイツワインの説明が行われた。ラベルの見方、ドイツワインの生産地域、ブドウの品種、ワインのクラスとタイプなどについての解説を辛口・中辛口・甘口（カビネット／シュペートレーゼ）の4種のワインの試飲をしながら聞いた。今回の試飲会担当の古倉理事の奥さんが用意したつまみと会長差し入れのオードブルも加わり楽しい会となった。終了後には即売会も行われ、好評であった。

訃報

当協会名誉会長 玉置孝氏（千葉銀行会長）が十月十九日肺癌にて逝去されました。

謹んで御冥福をお祈り致します。

～今後の催し物案内～

◆ **豆まき**

- **日時：** 2月1日（木）14:00～
- **場所：** 清房院
  （ＪＲ津田沼駅北口バス乗場6番千葉病院行き終点下車徒歩十分）
- **申込：** 平田事務局長宛
  Tel.047－461－9111

◆ **理事会**

- **日時：** 3月（詳細は後日連絡）
- **場所：** 船橋東部公民館
  （ＪＲ津田沼駅北口徒歩3分）

－お詫び－

“Die Eiche” No.16 に一部ミスプリントがありましたので下記の通り訂正します。

1. 「イチョウとケンペル」
   13行目　誤:volgo → 正:vulgo
   誤:Adiantion → 正:Adiantino
2. 「長井長義展に参加して」
   本文19・25・30行目
   誤:長井長義氏 → 正:長井貞義氏

滞日ドイツ人学生との水戸日帰りバスハイク

（財）日独協会主催のバスハイクは、快晴に恵まれた十月十四日（土）に行われた。当日は、ＤＡＡＤ（ドイツ学術交流協会）の学生のほか、企業研修で来日しているドイツ人青年ら約五十名と日独協会関係者七十名が参加（当協会からは七名）。

八時に東京駅南口をバス二台で出発、十時には水戸に到着した。偕楽園・弘道館を見学して午後一時に大洗ホテルに到着。茨城日独協会の井上寿博会長らの乾杯で懇親会。水戸光圀公が接待用に作らせたという「水戸うどんなべ」も大鍋で出され日独交流の実をあげた。

夕方六時半に東京に帰着、楽しい一日となった。

弘道館前にて